

## 令和5年度鎌ヶ谷市献血推進協議会議事録

開催日時：令和6年3月19日（火） 13：00～14：00

開催場所：総合福祉保健センター3階 集団指導室

- 議 題： 1 令和5年度鎌ヶ谷市献血事業実績について  
2 令和6年度鎌ヶ谷市献血実施計画について  
3 令和6年度千葉県献血推進計画について

出席者

### 【委員】

大石孝委員、杉戸一寿委員、渡邊輝江委員、葛山繁隆委員、川田由美子委員

### 【千葉県赤十字血液センター】

大橋献血推進一副部長 兼献血推進課長 兼千葉出張所長  
腰川陽佑献血推進課主事

### 【事務局】

本間健康増進課長、舟波主幹、仲村係長、青柳保健師

### 【その他】

習志野健康福祉センター 小野悦子副センター長

欠席者

野村直人委員、皆川洋子委員、小島昭人委員、佐々木和則委員、  
佐々木純委員、渡部臣道委員（うち5名より委任状提出あり）

（事務局）

それでは、本日は委嘱後初の会議でございますので、会長・副会長の選出をお願いしたいと思います。「鎌ヶ谷市献血推進協議会設置要綱」第3条の規定により委員の互選となっておりますので、よろしくお願ひします。

（会長を大石委員、副会長を杉戸委員で異議なし）

（事務局）

本会の議長は、鎌ヶ谷市献血推進協議会設置要綱第5条によりまして、会長が務めることとなっておりますので、これ以降の議題につきまして、議事進行の程よろしくお願ひいたします。

(大石会長)

本会の会長となりました大石です。よろしくお願ひいたします。  
それでは、早速、お手元の会議次第に基づき、議事進行させていただきます。  
まず「会議録署名人の選任について」です。事務局から説明願ひます。

(事務局)

議事録署名人は、後日、事務局で本日の会議の記録を作成した後、署名をいただく方となります。本協議会の議事録は、概要と発言者名を記載する形としております。

また、署名人を、名簿順としておりますので、今回は、ご出席者の中で、渡邊委員と葛山委員に願ひしたいと存じます。

なお、ご承認いただけましたら、会議録作成のため、発言の内容は録音させていただきます。

〔会議録署名人については名簿順に渡邊委員と葛山委員に依頼し、議事録は概要と発言者名を記載する形で異議なし〕

(大石会長)

それでは、早速、お手元の会議次第に基づき、議事、進行させていただきます。議題1 令和5年度鎌ヶ谷市献血事業実績について、事務局から説明を願ひます。

(事務局)

鎌ヶ谷市主催事業とは、市役所・警察・消防で実施した献血です。市役所では職員及び市民の方を対象として1日、警察・消防では主に職員の方を対象とし半日実施しております。

鎌ヶ谷市役所に献血車が来る際には、2週間ほど前から、ポスター掲示、庁内情報システム、庁内放送、広報かまがや、鎌ヶ谷市ホームページ、SNSを活用した周知活動を行っております。

2月20日～3月5日にかけては、初めて、イオン、アクロスモール、ヨークマート鎌ヶ谷店の3店舗で、市役所で献血を実施する周知の店内放送をしていただきました。

また、3月は、花粉症などの体調不良や繁忙期によるため献血者が減少することから「千葉県献血推進強調月間」として献血の啓発運動を行っており、今月末まで、新京成、北総鉄道、東武鉄道にご協力いただき、新鎌ヶ谷駅に献血

啓発ポスターを掲示していただいています。

献血当日は血液センターや赤十字奉仕団の方とともに庁舎内をめぐり、職員へ協力を呼びかけました。

おかげさまで、年4回の実施としては、今年度は令和2年度以降最も多くの方のご協力をいただき、一日当たりの受付人数の目標値である50人を全ての回で達成することができました。

これも、日頃からの温かいボランティア活動のご協力あつてのことであり、心からお礼申し上げます。

(大石会長)

それでは、議題2 令和6年度鎌ヶ谷市献血実施計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

市主催事業については昨年度同様の会場で同様の回数で実施を予定しております。なお、各協力団体の皆様におかれましては、令和6年度もご協力の程、よろしく願いいたします。事業所等の主催による実施は未定ですが、順次計画される予定です。

(大石会長)

ただ今の議題1・2の説明に対し、ご質問等はございませんか。

(渡邊委員)

コロナの影響もありますが、献血量を確保することは非常に大切なことだと思っています。市の実績では、例年同様の会場での献血となっておりますが、ほかに増やすことは難しいのでしょうか。

(事務局)

以前、イオン鎌ヶ谷で実施したこともありましたが、なかなか集客が見込めず、献血車の配車ができなくなった経緯がございます。鎌ヶ谷市は、大学等もなく、日中、東京などに働きに出られる方が多いことから、会場を設けても献血できる年代の人が少ない状況です。ぜひ、委員の皆様にもご意見をいただき、より良い体制としてまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

(大石会長)

次に、議題3 令和6年度千葉県献血推進計画について、千葉県赤十字血液センターよりご説明をお願いします。

(千葉県赤十字血液センター)

千葉県内の輸血用血液製剤の需要は令和2年度から増加傾向が続いており、令和4年度は延べ841,887単位(前年度比103.8パーセント)を医療機関にお届けしました。1単位は200ミリリットルと換算しています。県内6か所の献血ルームと10台の献血バスで延べ232,260名(同100.8パーセント)から献血協力いただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により献血バスの中止等ありましたが、他県との調整、報道、SNS、メールなどの献血要請により多くのご協力を頂き、医療機関に遅滞なく血液をお届けすることができました。

献血は20代~40代で減少しており、今後の献血基盤を支える若年層をはじめ、より多くの皆さまのご協力が必要とされています。

コロナの影響で医療機関の受診が減り、必要な血液も減っていると思われているのですが、そうではありません。献血の協力者は16~50歳までが全体の8割です。一方で、輸血を必要とするのは50歳以上が全体の85パーセントとなっています。ですので、輸血を受ける世代の人口が増え需要は増加していると言えます。

千葉県で設定する鎌ヶ谷市の目標の達成は厳しいという意見がございますが、鎌ヶ谷市在住の献血者は少なくありません。人口に見合うご協力は得られており、それは皆さまボランティアの方のご協力と、市の広報が功を奏したと赤十字は認識しております。

400ミリリットル献血は2,137名増やさなければいけないのですが、一方血漿成分献血は9,299名減少となります。また、血小板成分献血は1,673名増やしてくださいということです。つまり、血漿成分は減少させて良いということなのですが、これは需要が減っているわけではなく、製薬会社の血液製剤を作るプラントが増設中で出荷できない状況で減っています。3,200人分成分献血を増やしなさいとなっていますので、需要と供給のバランスがとれていない現象が起きています。しかしながら、令和5年度の実績でいいますと、おかげさまで、赤血球、血漿、血小板全て県内必要な分はまかなえています。

千葉県は新潟から長野、関東の1都9県関東甲信越ブロックとなります。全国で7ブロックに分かれています。日本全体の30パーセントを占める大き

なブロックとなっております。赤血球は1.4パーセント他県に依存している一方、成分献血に対しては、献血ルームが沢山あり、そこでしっかり確保して他県の分を補っています。今後もブロック全体で調整しながら確保してまいります。

バス一台を効率的に稼働するため制限する場合もあり申し訳ありませんが、しっかり担っていただける場所に関しては積極的に稼働してまいりたいと思っています。

令和6年度に県から割り当てられている献血目標については、昼間人口をベースに鎌ヶ谷市にいらっしゃる方の人口を按分しております。200ミリリットルの目標が32名、400ミリリットルが1,031名、合計で1,063名となっております。令和5年度は1,021名でございますので、合計で昨年より42名多くお願いしています。

(大石会長)

ただ今の説明に対し、ご質問等はございませんか。

(川田委員)

200ミリリットルの献血が少ないように感じます。献血の希望があっても、体重が少なく200ミリリットルしか取れない人がいます。200ミリリットルは需要がないと断られたこともあります。200ミリリットルの枠が少ない理由を教えてくださいたいと思います。

また、不適がとても多いですが、せつかくご協力いただいたのにもったいないと感じます。不適になる理由や改善方法はないか、教えてくださいたいです。

(千葉県赤十字血液センター)

まず200ミリリットル献血のご質問に関しては、千葉県内医療機関での需要が400ミリリットルが97.5パーセント、200ミリリットルが2.5パーセントです。200ミリリットルの主要の用途の大半が新生児、あとはかなりのご高齢の方で400ミリリットルを輸血しきれない方です。

医療機関は、数多くの人々の血液を使用するよりは、同じ人からの血液で、量は沢山使いたいと考えます。そうすると、400ミリリットルが沢山必要というのが医療現場のニーズです。200ミリリットルの需要の多くは、年齢基準で200ミリリットルのみご協力可能である16歳の男性と、16歳、17歳の女性からでまかなえてしまいます。必要以上確保し、その血液が有効利用されないことを考えると、200ミリリットルをいたずらに沢山いただくことは

できません。

不適に関しては、今、お薬を飲んでる方が沢山いらっしゃるのですが、輸血を受ける方にとってはあまり大きな影響はありません。赤十字で考えているのは、献血をする方の健康被害です。こちらの方が大事なので、献血をして体調を崩すということがないようにしています。血液の濃さで、もともと貧血傾向のある方、食事を2回とっていない方、かなり強い薬を服用している方にはお願いできないことになっています。

(大石会長)

献血は、赤血球製剤、血漿製剤、血漿版製剤の3つに分かれています。献血だと全てこの3つのいずれかに分けるということですか。

(千葉県赤十字血液センター)

はい。基本各成分ごとに分けることとなります。今は、もう10年くらい千葉県で全血で供給したという例はありません。

(大石会長)

ほかにご質問ありませんか。ないようであれば、議題1、2、3すべてにご承認いただいたということよろしいですか。

(一同)

異議なし

(大石会長)

本日の議事はすべて終了いたしました。最後に事務局から何かありますか。

(事務局)

コロナ禍において鎌ヶ谷では、今までお願いできていた会場でも在宅勤務に切り替わってしまったため実施できなくなるなど、献血量の現状維持にも努力が必要な状況ですが、このような状況の中においても、例年並みに維持できたのは、皆様のご理解ご協力があったとのこととっております。

献血主管課としても、様々な工夫をしながら体制を構築してまいりたいと考えておりますので、ご多忙のところ恐れ入りますが、次年度も皆様方のご協力を賜りたく、よろしく願いいたします。

(葛山委員)

献血会場でのボランティアについて、市から議員に依頼していますか。

(本間課長)

依頼しておりません。この献血推進協議会の協力団体の一員の方であることと、呼びかけの内容は純粹に献血のご協力だけと認識しております。

(川田委員)

体調は良いが、前日飲みすぎた場合は控えた方が良いでしょうか。

(千葉県赤十字血液センター)

原則はありませんが、目安としては、最後に飲み終わってから8時間は空けていただいています。二日酔いの状態の時はお願いしていません。最終的には医師が判断します。先ほどの議員さんの件ですが、所属団体の法被を着るなど、見せ方の工夫が必要なのかなとは思っています。

基本皆さまは、何か着ていらっしゃいますか。

(川田委員)

当クラブはジャンパーを着て、きちっとわかるような形でやっております。

(千葉県赤十字血液センター)

見せ方として、その団体が主催というのが前面に見えるようにやっていたら問題ないと思います。

(大石会長)

以上で本日の協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

会議録署名人

渡邊輝江

---

葛山繁隆

---